

マンツーマンコミッショナーの設置および競技会(試合)における運用について

〔マンツーマンコミッショナー設置の目的〕

マンツーマンコミッショナー(以下、「コミッショナー」)の設置の主な目的は試合における違反行為を取り締まることではなく、マンツーマンディフェンスに対する理解を推進し、円滑に試合運営を行い、より子供達がバスケットボールを楽しめる環境を構築すること。

〔マンツーマンコミッショナーの役割〕

- ・競技会(試合)において、「マンツーマンディフェンスの基準規則」に則り、判定を行う。
- ・違反行為があった場合には、審判を通じて対象チームのコーチに警告を与える。(2回目以降の違反行為に対してはテクニカル・ファウル)※違反行為の数はコミッショナーが管理

〔運用方法〕

- ・競技会主催者は、大会要項に「マンツーマンディフェンスの基準規則」に則ることを記載する。
- ・試合が見渡せる場所(TO席側が望ましい)にコミッショナー席を置く。事前に両チームのコーチには着席場所を伝えておくこと。
- ・コミッショナーの人数については1名または2名とする。
- ・コミッショナーは違反行為が生じた際に「黄色(注意)」の旗を振り、コーチ・選手の対応を確認。改善しない場合は、「赤色(警告)」の旗を上げ、ゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、審判は両チームのコーチをTO席前に招く。コミッショナーは両チームのコーチに対して内容を説明する。
 - ※ゲームクロックが止まっている時にもかかわらず、審判が気付かない場合はブザーを鳴らすことも可とする。
 - ※悪質な違反行為については、「黄色(注意)」の旗を振らずに、「赤色(警告)」の旗を上げることも可とする。(試合終了間際など含む。)
 - ※使用する旗の色に関しては、主催者の判断で他の色に変更しても構わないが、事前にきちんと周知しておくこと。
- ・コーチから選手に説明する時間が必要な場合、TO席前にコート上の5人の選手を集め、コミッショナー同席のもと、速やかに説明を行い、試合を再開する。コーチからの要請がある場合やコーチが誤って伝達している場合には速やかにコミッショナーが説明をする。
- ・2回目以降の違反行為に対しては、コミッショナーからコーチへの説明の後、審判は対象チームのコーチにテクニカル・ファウルを適用する。
- ・試合中、審判とコミッショナーは密に連携を図り、可能な限り円滑に試合運営を行う。
- ・コミッショナーは、ピリオド間、ハーフタイム等も必要に応じてコーチ等とコミュニケーションを図り、円滑に試合を進めるよう努める。
- ・試合終了後、コミッショナーは速やかに競技会主催者(競技本部等)に報告する。
- ・故意的な違反行為があった場合、競技会主催者は、競技会終了後に所属都道府県協会のマンツーマンディレクター(および必要に応じて関係連盟等)に報告書を提出する。マンツーマンディレクターはJBAに報告書を提出する。

〔違反行為判定にあたっての留意点〕

- ・体力、技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては留意すること。